

2022年 新緑を迎えて

本校の歴史の源流は、明治時代に遡りますが、富山、広島、大島、弓削とともに国立鳥羽商船高等専門学校として組織され、商船に関する学科が5年半の修業年限として開校したのは、1967年（昭和42年）になります。我が国に15歳から5年間一貫の高等教育しくみとしての高等専門学校（高専、KOSEN）が1961（昭和36年）に創設されて、翌1962年に一期校が開校されて2022年で60年を迎えます。来年は、「高専制度創設60周年記念」の一環として、これまでの各種コンテスト、ロボコン、プロコン、DCONや高専体育大会などに加えて「高専におけるSociety5.0型人材育成機会の拡大」、「女性技術者・研究者が少ない日本の現状打破」に向けて高専女子を対象とした新たなコンテスト「高専GCON（高専GIRLS SDGs×Technology Contest）」も開催されます。

後期中等教育を包含して実践的・創造的技術者を養成する日本独特の高等教育機関として大学と肩をならべて発展して今に至っている国立高専機構傘下の高専51校の一員として、商船高専として、施設や環境について、今後どのように整備をしていけばよいか。国内外にひろがる産業界や地域の自治体、他高専、大学等との連携を大事にしながら、「温かくも特徴ある、尖った一面をもつ」鳥羽商船高専の絵姿を描いて実現に向かっていきたいと思えます。本校学生はコロナ禍の影響のなかで、商船学科の3年生は無事に海技教育機構の大型練習船による乗船実習を終えることができました。現在は、4年生が乗船しています。また、電子機械工学科、制御情報工学科の4年生は、工場見学旅行を実施、高専体育大会、DCONやプロコン、ロボコンなどのコンテスト、また全国漕艇大会で活躍し、「トビタテ！留学JAPAN～日本代表プログラム～」に採択-第7期壮行会に参加などがホームページ等で御覧になれます。海学祭も開催されます。新型コロナウイルス感染症の状況はいまだ不透明ですが、学校は、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、教職員一同、学生と一体となって教育実践に取り組んでいきます。変わらずのご支援をいただけますよう深甚よりお願い申し上げます。

後学期の始業式でも話をしましたが、ニューノーマル、新しい生活様式の時代に入り、感染をもちこまない、ひろげないためのルールを各自が遵守することはもちろん、これまでの経験を生かした校内や寮での日頃の生活の過ごし方を実践していきます。学生寮は教育寮であり、修養の場と位置付けています。学生は、集団生活に慣れるとともに自立心を養いま

寮ではひとりではありません。互いに深い絆を築き生涯の友を得ることもできます。感染症拡大防止の観点で全室個室として運用しており、現状では、来年度新たな新入生を迎えるにあたり、上級生を含めて希望者全員を収容することは厳しいものがあります。寮則等に則り、年度ごとの選考となります。もうすぐ 2022 年、進級や卒業に向かってまた気持ちを本校学生は新たに進むこととなります。現 1 年生は、高専の学修生活に慣れてきたでしょうか。また、学校生活に慣れてきた上級生にあつては、学校周辺の地元や近接地域に居住して地域社会、歴史や文化に親しむことも、日頃の学修に相補して二度とない今の学生生活を自立化し、充実させる選択肢のひとつと思われれます。

ここ鳥羽、伊勢、志摩は、豊かな自然と歴史や文化があります。これだけ風光明媚な立地の国立高等専門学校は多くはないと思われれます。学生は、これらの名勝、史跡、博物館や美術館など、多くに触れることができます。歴史や文化を良く知ることは、在学中や卒業後の社会における、さまざまな岐路、判断を求められる際にもおおいに参考になります。この鳥羽の地で学ぶ間に我が国や世界の歴史と文化に触れてほしいと思います。

(校報から)